

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	解剖生理学  22n109	担当教員  (実務経験)	鈴木 裕子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	人体の構造と機能について生理と解剖を通して系統的に学ぶ。正常な人体の働きを知り、疾患の理解を深める。				
到達目標	眼科専門分野を学ぶ基礎として、運動器(筋、骨格)系とヒトの神経系に重点を置き、各部位の名称や相互関係・構造について述べる事ができる。				
テキスト・ 参考図書等	人体の構造と機能 第5版(医歯薬出版)、からだの地図帳(講談社)、シンプル生理学 改訂第7版(南江堂)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	前期と後期を合わせて評価する		
	レポート	5%			
	小テスト	5%			
	提出物	5%			
	その他	5%			
履修上の 留意事項	①講義ごとに小テストを実施する。②授業開始までに必要な機器の準備を済ませておくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	個体の構造1	細胞、組織、器官、器官系		
	2	個体の構造2	細胞、組織、器官、器官系、恒常性と生体リズム		
	3	運動系1	骨格1		
	4	運動系2	骨格2		
	5	運動系3	関節、骨格筋の構造と機能		
	6	運動系4	全身の骨格筋		
	7	体液と血液	体液と血液の概要		
	8	血液	血球、止血、血液型		
	9	生体の防御機構1	特異的防御機構と非特異的防御機構、抗体		
	10	生体の防御機構2	リンパ系組織		
	11	循環系1	心臓		
	12	循環系2	血管系		
	13	循環系3	血管系、血圧		
	14	呼吸器系1	気道、肺の構造		
15	呼吸器系2	呼吸機能			

	回数	履修主題	履修内容
	16	神経系1	基礎、神経細胞
	17	神経系2	大脳、間脳
	18	神経系3	脳幹、小脳、脊髄、脳神経
	19	神経系4	脊髄神経、自律神経
	20	感覚器系1	視覚1 概要
	21	感覚器系2	視覚2 調節、視路、外眼筋、対光反射
	22	感覚器系3	聴覚と味覚、味覚の実験
	23	感覚器系4	嗅覚と体性感覚
	24	内分泌系1、体温調節	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、体温
	25	内分泌系2	膵臓、副腎、松果体、消化管、性腺
	26	消化器系1	口腔、唾液腺、胃、小腸
	27	消化器系2	大腸、膵臓、肝臓、アルコールパッチテスト
	28	泌尿器系	腎臓
	29	生殖と老化	精巣、卵巢
30	個体の発生	受精卵、発生	

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	視器の機能解剖生理学  22n110	担当教員  (実務経験)	松田 理恵  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	視器の構造と機能を理解する。				
到達目標	眼球、眼球付属器、眼に関係する神経や血管系、視覚伝導路、視器の発生について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)、視能学 第3版(文光堂) 病気がみえる vol.12 眼科(メディックメディア)、病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版(メディックメディア)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	①定期試験60% ②小テスト30% ③課題10%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	10%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	模式図を含めたまとめノートをつくること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	視器の基礎	視器の概要1		
	2	視器の基礎	視器の概要2		
	3	視器の基礎	強膜・角膜		
	4	視器の基礎	虹彩・毛様体・脈絡膜		
	5	視器の基礎	房水・水晶体・硝子体		
	6	視器の基礎	網膜		
	7	視器の基礎	問題演習		
	8	視器の基礎	眼球付属器・眼窩		
	9	視器の基礎	血管系		
	10	視器の基礎	神経支配		
	11	視器の基礎	視覚伝導路		
	12	視器の基礎	視器の発生		
	13	視器の基礎	眼球の解剖学的・幾何学的計測値1		
	14	視器の基礎	眼球の解剖学的・幾何学的計測値2		
15	視器の基礎	総括			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	公衆衛生学  22n111	担当教員  (実務経験)	渡辺 一弘  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	人々の健康増進および健康をめぐる社会的な諸問題について、広い知識を身につける。				
到達目標	健康保健に関する諸法規および集団の健康指標の意味を理解し、医学分野での公衆衛生の立ち位置について述べるができる。				
テキスト・ 参考図書等	わかりやすい公衆衛生学 第4版(ヌーベルヒロカワ)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	①定期試験での点数を科目成績全体の60%の評価点とする。 ②小テスト(中間評価試験:授業中に実施)の点数を科目成績全体の30%の評価点とする。 ③授業の参加態度などを科目成績全体の10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の 留意事項	①教科書、配付プリント、板書を中心に講義形式で行います。 ②教科書に添付されている「わかりやすい公衆衛生学 整理ノート」を用いて、毎授業の予習復習をして下さい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	公衆衛生とは(1)	・公衆衛生の概念、健康とは		
	2	公衆衛生とは(2) 健康と環境、疫学的方法(1)	・公衆衛生の歴史 ・現代の健康影響の諸相、集団の特性		
	3	健康と環境、疫学的方法(2)	・集団を扱う医学		
	4	健康の指標(1)	・人口問題、人口動態統計		
	5	健康の指標(2) 感染症とその予防(1)	・健康状態と受療状況 ・感染症との成立要因、種類、予防、主要な感染症他(1)		
	6	感染症とその予防(2)	・感染症との成立要因、種類、予防、主要な感染症他(2)		
	7	食品保健と栄養	・食品の安全、食中毒、食品衛生管理、国民の栄養		
	8	生活環境の保全(1)	・地球環境、生活環境の安全、ごみ・廃棄物の処理(1)		
	9	生活環境の保全(2) 医療・介護の保障制度	・地球環境、生活環境の安全、ごみ・廃棄物の処理(2) ・医療保障・保険、診療報酬、国民医療費、介護保険他		
	10	地域保健活動	・地域保健法と医療サービス、保健・医療従事者他		
	11	母子保健 学校保健(1)	・母子保健、母子保健サービスの現状と課題他 ・学校保健制度、保健教育・管理、学校安全他(1)		
	12	学校保健(2) 生活習慣病	・学校保健制度、保健教育・管理、学校安全他(2) ・生活習慣病の概念と現状、健康づくり施策、老人保健他		
	13	難病対策 健康教育とヘルスプロモーション(1)	・対策の歴史、定義と指定難病、医療費助成制度、地域支援ネットワーク他 ・健康教育・ヘルスプロモーションの進め方と具体例他(1)		
	14	健康教育とヘルスプロモーション(2) 精神保健福祉	・健康教育・ヘルスプロモーションの進め方と具体例他(2) ・精神医療の歴史と法制度の変遷、人間発達と精神保健他		
15	産業保健 これからの公衆衛生	・労働環境、労働衛生管理の仕組み、職業病と対策他 ・社会の変遷と公衆衛生、公衆衛生の倫理			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	病理学 I  22n112	担当教員  (実務経験)	飯塚 正  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	疾病の病因、発症の成り立ち、その病態を理解する。				
到達目標	疾病に関する正しい知識を身につけ治療法の意義を説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	プリント教材				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験100%(中間試験+期末試験)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①プロジェクターを使用し、広範囲を早いペースで進むので、講義への集中と資料の整理整頓が望まれる。②中間試験を行うこともある。 ③配布したプリントは毎回持参すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	疾病の定義、概念	病理学序論、疾病とは		
	2	疾病の原因	病因(内因)		
	3	疾病の原因	病因(外因)		
	4	病因と疾病の種類	退行性病変1(萎縮、変性1)		
	5	病因と疾病の種類	退行性病変2(変性2、壊死)		
	6	病因と疾病の種類	循環障害1(充血、うっ血、虚血、血栓)		
	7	病因と疾病の種類	循環障害2(塞栓、梗塞、水腫)		
	8	病因と疾病の種類	進行性病変(肥大、過形成、創傷治癒)		
	9	病因と疾病の種類	炎症(種類、病態)		
	10	病因と疾病の種類	免疫(免疫機構、免疫異常、アレルギー)		
	11	病因と疾病の種類	腫瘍1(良性、悪性鑑別、原因)		
	12	病因と疾病の種類	腫瘍2(種類、分類、全身への影響)		
	13	病因と疾病の種類	腫瘍3(主な臓器の腫瘍、小児の腫瘍)		
	14	病因と疾病の種類	先天性疾患1(遺伝機序、染色体異常)		
15	病因と疾病の種類	先天性疾患2(遺伝子異常、奇形)			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	視覚生理学 I  22n113	担当教員  (実務経験)	川岸 寿幸  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	実習を通して視器の生理的機能について知識を得る。				
到達目標	光覚について理解することができる。視野検査の基礎について理解することができる。色覚検査を実施できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、病気がみえる vol.12 眼科(メディックメディア)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②実習時の検査結果を提出し、検査が正しくできているか10% ③実習時の服装態度など10%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	10%				
履修上の留意事項	実習前に実習に必要な動画を視聴してもらうことがあります。必ず事前に視聴し予習をしたうえで実習に臨んでください。 実習時は常に学生同士であっても患者さんとして真剣に実習に臨むこと 教員からの指導やアドバイスは常にメモが取れるように準備すること				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	基本的知識(松田)	明るさの単位、感覚		
	2	光覚1(川岸、四宮)	光覚・暗順応検査		
	3	光覚2(川岸、四宮)	暗順応体験、演習		
	4	視野検査1(川岸、山田)	視野の基礎1		
	5	視野検査2(川岸、山田)	視野の基礎2		
	6	視野検査3(川岸、山田)	静的視野計・動的視野計1		
	7	視野検査4(川岸、山田)	静的視野計・動的視野計2		
	8	視野検査5(川岸、山田)	静的視野計・動的視野計3		
	9	色覚1(川岸)	色覚異常と各種検査法		
	10	色覚2(川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習1 仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ		
	11	色覚3(川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習2 仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ		
	12	色覚4(川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習3 仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ		
	13	色覚5(川岸)	色覚検査実習まとめ カラーユニバーサルデザインについて		
	14	視力・色覚検査実習1(川岸、佐久間、四宮)	救急救命学科学学生の検査実習		
15	視力・色覚検査実習2(川岸、佐久間、四宮)	救急救命学科学学生の検査実習			



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	視覚生理学Ⅱ  22n114	担当教員  (実務経験)	松田 理恵  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	視覚生理の基礎を理解し、斜視・弱視を学ぶ基礎づくりをする。				
到達目標	視覚生理学の基礎を理解し、視能矯正の分野に繋げる。				
テキスト・ 参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、視能学エキスパート 視能訓練学 第二版(医学書院)、病気が見える vol.12 眼科(メディックメディア)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	①定期試験40% ②確認テスト40% ③課題提出20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	①プリントや板書、パワーポイントを中心に講義形式の授業。 ②テキストを持参すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	神経科学1	神経系の概要		
	2	神経科学2	伝導と伝達		
	3	神経科学3	中枢神経系の構造		
	4	神経科学4	血液循環		
	5	神経科学5	運動、感覚		
	6	神経科学6	脳神経		
	7	神経科学7	まとめ		
	8	視覚情報処理1	網膜の構造		
	9	視覚情報処理2	視細胞、双極細胞		
	10	視覚情報処理3	双極細胞、神経節細胞		
	11	視覚情報処理4	神経節細胞、外側膝状体		
	12	視覚情報処理5	視覚野		
	13	視覚情報処理6	視機能の発達		
	14	視覚情報処理7	眼球運動		
15	視覚情報処理8	まとめ			



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	生理光学 I  22n115		担当教員  (実務経験)	四宮 敦志  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	光学と屈折の基礎を学び、眼科検査と結びつける。				
到達目標	眼球光学、レンズ光学、屈折、調節について説明できる。屈折力・調節力の計算ができる。屈折の種類を理解し、レンズによる矯正原理を説明できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、屈折異常とその矯正(金原出版)、新しい眼光学の基礎(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①定期試験70% ②小テスト30%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①パワーポイントを用いた講義形式の授業。②練習問題を配付するので復習すること。③小テストを複数回実施する。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	レンズの光学1	レンズ基礎、作用・形状・表記方法		
	2	レンズの光学2	光学の基礎、レンズの分類と作用、Vergence		
	3	レンズの光学3	前回復習、主要点、拡大・縮小効果、プリズム、プリズム偏角		
	4	プリズムの光学1	プリズム偏角、プリズム効果、Prenticeの公式		
	5	プリズムの光学2、眼球光学1	前回復習、眼球光学、Gullstrandの模型眼、眼球の光学系と組織		
	6	眼球光学2	眼の参照軸と角度、瞳孔の光学、Purkinje-Sanson像、収差		
	7	屈折異常とその矯正1	前回復習、屈折異常の基礎		
	8	屈折異常とその矯正2	屈折異常の分類		
	9	屈折異常とその矯正3	前回復習、屈折の基礎とレンズの効果から屈折矯正を考える1(球面)		
	10	屈折異常とその矯正4	屈折の基礎とレンズの効果から屈折矯正を考える2(球面+円柱)		
	11	屈折異常とその矯正5	屈折の基礎とレンズの効果から屈折矯正を考える3(等価球面度数)		
	12	屈折異常とその矯正6	屈折力・調節力の計算1		
	13	屈折異常とその矯正7	屈折力・調節力の計算2		
	14	総復習1	課題解説		
15	総復習2	問題演習と解説			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	生理光学Ⅱ  22n116	担当教員  (実務経験)	四宮 敦志  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う。 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	視力検査に関わる基礎知識を学ぶ。				
到達目標	視力検査の基礎知識について述べるができる。視角と視力、ランドルト環について説明できる。頂間距離の計算ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、理解を深めよう視力検査・屈折検査(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②小テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①複数回小テストを実施する。②練習問題を配付するので復習すること。③計算問題が複数あるので苦手な学生は復習を欠かさないこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	形態覚1(四宮)	4つの尺度、視力の分類、視力と視角		
	2	形態覚2(四宮)	視力と視角、ランドルト環		
	3	形態覚3(四宮)	logMAR値、視力に影響する因子		
	4	視力検査1(四宮)	視力検査の実際		
	5	視力検査2(四宮)	中心視力・中心外視力		
	6	視力検査3(四宮)	0.01以下の測定方法、近見視力		
	7	視力検査4(佐藤)	小児の視力		
	8	視力視力5(四宮、佐藤)	0.01以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習1		
	9	視力視力6(四宮、佐藤)	0.01以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習2		
	10	視力視力7(四宮、佐藤)	0.01以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習3		
	11	視力視力8(四宮、佐藤)	0.01以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習4		
	12	屈折・調節1(四宮)	屈折の分類、屈折力・調節力の計算		
	13	屈折・調節2(四宮)	頂間距離とレンズ度数1		
	14	屈折・調節3(四宮)	頂間距離とレンズ度数2		
15	まとめ(四宮)	総復習			

